

# 琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係 一般重要案件(2)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43793">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43793</a>

K2.8.7

LST日本人平和投票のウエブサイト  
戦火被災の鳴

K2. 8. 7

近藤 寛行  
南支那局長  
参事官  
北米課長

北米局長  
参事官  
北米課長

秘

総南連第1906号

昭和42年8月7日

総理府特別地域連絡局長 殿

那覇日本政府南方連絡事務所長

日本人船員乗組LST艇のヴィエトナム戦火被災にかかわる  
事について

1 8月7日当事務所において開知した事によれば、同日3時頃那覇軍港に碇泊中のLST艇のうちの1隻は乗組員全員日本人にして、ヴィエトナムと本土との間の軍需物資の輸送に当たっているものであるが、当地寄港前に航海していたヴィエトナム海域において戦火に巻き込まれ、相当の損傷を蒙った模様とのことであつた。その後、当地琉球新報記者が軍港外より艦首で当該LST艇を観察したところによれば、同艇の船首に砲撃を受けた跡らしきくぼみ(大きさについては「相当大きなくぼみ」とリポートされているのみで詳細は不詳)が見られたが、これが砲撃であるとの確証はなく、また当該艇が同日6時頃自力で出港したこともあつ

て、上記噂は立消えとなつた。  
2 本件については、上記噂を聞き知後、直ちに所員をして高等弁務官情報調査官たるターロット大佐に事実の有無確認方調査依頼したところ、同大佐より関係軍当局に照会せるも、上記噂の事実はなき旨の調査結果が報告されおる趣回答した。

なお、同大佐によれば、6日那覇軍港に寄港ないし碇泊せるLST艇は3隻であつたが、そのうちの1隻は乗組員が全員韓国人で、残りの2隻については1部乗組員が日本人であるとの趣であつた。

3 本件噂は目下のところなんらの根拠を有せざるも、今後国会等で問題とされる可能性なしとしないので、取り敢えず御報告する。

本信事送付先 外務省北米局長

要	要	要	要
要	要	要	要
課	課	課	課
英	河	内	
渡	辺	吉	
田	中	吉	
森	山	坂	
和	川	崎	
中	田		
橋	本		
黒	須		